



信松尼公肖像画 （京極佳夕画）

松 姫

松姫は、世にも稀な美しい人であつたという。織田信忠との婚約が破棄された後は、一度は婚約した身であるからと一生を独身で通した。そして、女性の不幸は我が身で沢山と、全ての女性に幸せをもたらし、守りたらんと誓願を起こされたという。尼公の墓所には、より幸せを願う女性の参詣が多い。

◇散歩のみどころ

J R 西八王子駅南口から、旧甲州往還をJ R 八王子駅南口まで、上野原宿界隈を歩く凡そ4km余の行程。市内で一番古い貯水槽がある水道道路を見ながら、松姫が眠る信松院へ。そこから東へと歩き、貴重な資料を収蔵している八王子市郷土資料館へ。館を出て、八王子城山線を左へ曲がり金剛院へ。金剛院の向かい側「時の鐘」で知られる念仏院、そして天満神社へ参る。また旧道に出て、並木以寧が眠る法蓮寺、原胤敦や三田村鳶魚らが眠る本立寺へと歩く。ここから細道を南へと歩き、欄方医秋山義方父子の墓やお薬師様で知られる観音寺、そして東源寺へ。そこから国道十六号線を北へ、旧道に戻る。自由民権運動活動拠点の広徳館跡や芭蕉句碑で知られる長心寺を見る。そして弘安の板碑、謙信遺愛の石灯籠が安置される興林寺へ。小野路を通り、八王子駅で解散。

①西八王子駅南口

台町四丁目

昭和十四年四月一日開業。昭和二十年（一九四五）八月、太平洋戦争による八王子空襲からは逃れることが出来た。昭和三十一年（一九五七）から、都立二商、八王子高校の生徒の登下校のみ南口に臨時改札口を開設。昭和六十三年四月一日から、国鉄西八王子駅がJ R 西八王子駅に移行。



J R 西八王子駅南口

●水道山横丁

散田一丁目

元本郷町の東京都水道局から散田町にある水道山の散田配水池に、地下パイプを通じて水を汲み上げている。その地下パイプの上の道路から甲州街道までが、上（かみ）、下（しも）の水道山横丁または水道横丁と呼ばれている。戦後、人家やスーパー、団地が増え、横丁の道を利用する人も多くなり、自然とこう呼ばれるようになったという。



西八王子駅のホーム
昭和 36 年 所蔵：清水正之



第一水道踏切



水道山から見た水道横丁

②金龍山信松院_都

台町

宗派 曹洞宗 恩方心源院末

本尊 釋迦牟尼佛

本山 福井県永平寺

寺宝 神奈川県総持寺

武田軍軍船（安宅船）雛型_都

武田松姫さま坐像

開山 仏国普照禪師

開基 武田信玄息女松姫尼公

開創 天正十八年（一五九〇）

戦前まで松姫手植えの松があつたが、戦災のため本堂、庫裡とともに焼失した。昭和三十八年客殿、昭和五十年本堂を再建した。



信松尼公坐像

●松姫の生涯

松姫は、武田信玄公の四女として永禄四年（一五六一）九月に生まれた。父信玄は、宿敵上杉謙信と雌雄を決すべく、川中島に出陣をしていた時期にあたる。七歳の時に、織田信長の嫡子で当時十一歳の信忠と婚約した。

元龜三年（一五七二）信玄は大群



信松院全景

を率いて宿願の上洛の軍を起こした。その信玄の行く手に立ち塞がったのが徳川家康で、浜松近くの三方ヶ原で合戦が行われ、その時に織田信長は家康の為に援軍を送った。この合戦は信玄の圧勝となったが、信長が家康に援軍を送った事で、松姫と信忠との婚約は破棄となった。年が明けた天正元年（一五七三）信玄は、旅の途中で病を發して没した。信玄の後を継いだ勝頼も、天正十年（一五八二）三月天目山で自刃、ここに甲斐源氏の名門武田家は滅亡した。

この時、松姫は兄の仁科五郎盛信の居城高遠城を訪れていた。ところが織田の軍勢が攻めてくるという報告に急ぎ甲府に戻り、松姫は幼い三人の姫を伴い、甲斐の地を後にして見知らぬ他国の関東をめざして落ちのびた。幾多の苦難の末にたどり着いたのが、武蔵国横山宿（八王子）の恩方村で、ひとまず金照庵という小庵に落ち着いた。その後、近くに在る曹洞宗の名刹心源院に随翁舜悦

ト山和尚を訪ね、禪師の下で剃髪し仏弟子となった。御年二十二歳であった。

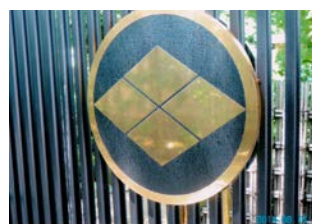
天正十八年（一五九〇）松姫は、当時の上野原宿で水の流れも清い御所水に庵を建てた。松姫は、武田一族の菩提を弔う仏道精進の日々の傍ら、糸を紬ぎ、絹を織る織物の技を里人に伝えた。また、近隣の子供達には手習いを教えたりして、土地の人から大変慕われ、尊まれ平和な日々を送った。この時松姫が伝えた織物が、後世八王子織物として発展していくこととなった。

さて、幕府は甲信への備えとして八王子に千人同心を配置した。この千人同心は、武田家に仕えていた旧家臣達で、関東総代官の大久保長安も武田の家臣であった。松姫は、この武田家旧家臣達の支えでもあった。時は移り元和二年（一六一六）四月十六日、松姫は永い眠りについた。御年五十六歳であった。法名は、信松院殿月峰永琴大禪定尼である。



松姫尼公

松姫逃避行中の想像スタイル



割菱（武田菱）

●木製軍船ひな形安宅船 都

朝鮮の役（文禄、慶長の役）に小早川隆景が使用した軍船のひな形。松姫の兄（仁科盛信、当時の高遠城主）の曾孫である仁科資真から寄進されたもので、当時の船を知る貴重なもの。

安宅船は、室町末期から江戸初期の、水軍で使用された軍船である。攻撃力、防禦力、耐波性にすぐれ、近代の戦艦に相当するという。檣材と竹材で作られており、長さ百^{cm}。二人漕ぎ櫓が四十挺つき、大筒と鉄砲の装備が出来るようになっていた。



軍船模型安宅船

●木製軍船ひな形関船

関船は、一人漕ぎの櫓が四十二挺ついた、長さ八十^{cm}の中型船で、いわゆる巡洋艦の役割を持っている。速力を出すための、波切りのよい鋭角的な船首を持ち、細長い船型である。



軍船模型関船

●布袋尊

七福神の中で唯一実在したと云われている。中国後梁の頃の高僧で、布袋和尚は物事にこだわらない人柄であった。愛敬富財、鷹揚和合、度量無限の福德をそなえ、家庭円満の神様である。その他境内には、聖観世音菩薩、穴守稻荷大明神などが祀られている。



布袋尊

●台町

八王子市東部、市街地の西南寄りにある。散田丘陵の先端部から北側にかけての位置。大正六年（一九一七）十月一日町名改正により、新横山町の地が台町となった。昭和四十七年（一九七二）住居表示を実施し誕生。江戸時代の新横山村の一部。

③八王子市郷土資料館

上野町

昭和四十二年（一九六七）開館。

井上郷太郎氏（元市教育委員・陶芸家）からの考古資料（井上コレクション）の市への寄贈を契機に東京オリンピックの記念事業として建設された。八王子市の考古資料をはじめ、民俗資料・古文書など三万点以上の資料を有し、八王子の郷土文化の研究・調査・学習の場としての役割を果たしている。



八王子市郷土資料館

●体験学習と主な刊行物

郷土資料館では、通常展示の他に特別展示も開催されている。また、民族の体験学習など多彩な催しも行っている。さらに、刊行物としては、「市の郷土資料館だより」、「資料館研究紀要」、「八王子名勝志」、「展示図録」などが刊行されている。



資料館刊行物



資料館内部

●屋外展示場

資料館の外庭には、貴重な石塔や石仏が二十数点展示されている。

中には、寛政三年（一七九一）千人同心の庚申講が建立した庚申塔があり、三十二名の名が刻まれ、植田孟縉の名もある。また、関東十八代官設楽能政の墓なども保存されている。



関東十八代官
設楽能政の墓

庚申塔

●都立第二商業高等学校・八王子高等小学校の碑

新しく完成した消防署北東の角には、再建された「東京府立第二商業学校」「八王子高等小学校（現在の第七小学校）敷地云々」と刻まれた芳名碑と自然石が保存されている。

大正九年（一九二〇）東京府立第二商業高等学校として、上野町七五番地、以前の八王子市民会館跡地に開校した。大正十五年（昭和元年一九二六）に八王子市立商業公民学校を併設。昭和十年（一九三五）四月夜間課程を設置した。

昭和十九年（一九四四）戦時体制により多摩工業学校（機械科）を併設。翌年太平洋戦争により校舎全焼。昭和二十三年（一九四八）新学制により現校名となり、昭和二十八年（一九五三）区画整理により現在地に移転した。昭和五十年全国初情報処理科を新設、商業科と情報処理科の二

科制となる。（都立第二商業高等学校は現在の都立八王子拓真高等学校）出身者には俳優の中条静夫、南原宏二、詩人の三吉豊一郎、歌手の東山明美、タレントの小川みどり等。同窓会は「桑友会」

また、大正九年（一九二〇）には東京府立第二商業学校が創立され、その一部を借用し、翌年八王子尋常高等小学校が四月に開校された。その後、昭和十六年（一九四一）八王子第七国民学校と改称。昭和二十年（一九四五）八王子空襲で校舎を焼失。市の工場、教会、神社などで分散授業を行った。その後、八王子市立第七小学校と改称し、現在の本校舎の落成となる。



八王子高等小学校
芳名碑

④別格本山慈高山金剛院 都

上野町

宗派 高野山真言宗
本尊 不動明王
寺宝 紙本着色高野山図絵

六曲屏風一隻 都

紙本着色西王母図

六曲屏風一双 都

菅原道真公直筆

阿弥陀如来一卷



東京府立第二商業学校の碑

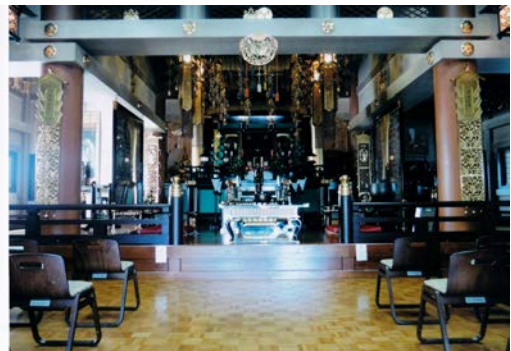
開基 安土桃山時代の僧・真清上人
開創 寛永八年（一六三二）の中興
江戸末期には、表門、鐘楼、本堂、
庫裡、観音堂を擁していたが、八王
子空襲により焼失。戦後、檀徒の支
援により、大本堂、書院、庫裡、仏
教文化センター金剛院会館の建築が
なされ、現在のような境内に整備さ
れた。



金剛院全景

●紙本着色高野山図絵

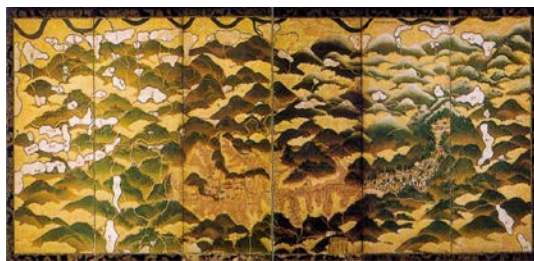
高野山全山を四季に分けて鳥瞰した絵図。中央には寺院、山門、諸山、河川など詳細に描写されている。作者は不詳。画法、書体等から、寛文年間前後（一六六〇前後）と考えられている。当画の様な高野山絵図の遺作は少なく、江戸時代の画風を伝える貴重な絵画資料の一つとなっている。



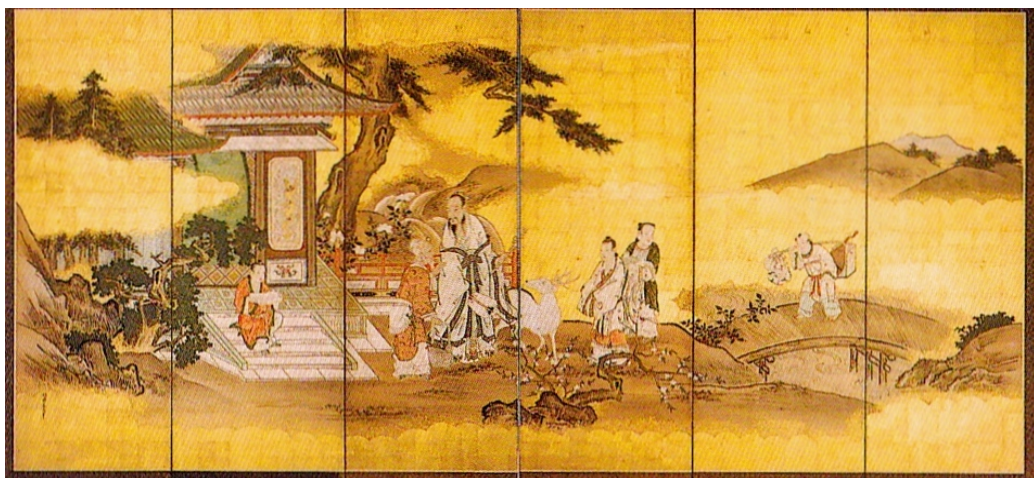
本堂内

● 紙本着色西王母図

伝来は不詳、落款に「狩野春笑筆」とある。西王母は中国崑崙山に住むという仙女。漢の武帝の時、帝に桃七個をすすめたという故事を題材にしたもの。三千年に一度花が咲き、長寿の仙桃を持つ仙女と伝えられている。左隻、老人が仙桃を籠に入れ、帝王に話しかける様子。右隻は、侍女が仙桃を西王母に献上しようとする様子が描かれている。



紙本着色高野山図絵
(金剛院蔵)



紙本着色西王母図 (上) 左隻 (下) 右隻 (金剛院蔵)



●「八王子八福神」 福祿寿

金剛院では、八王子八福神の一つ福祿寿を祀っている。

福祿寿は、背が低く、長い頭に長い髭、経巻を結びつけた杖を持ち、鶴を伴っている。中国では、南極星の化身で、幸福を授けるといいう。



福 祿 寿

●萩原彦七の墓

嘉永三年（一八五〇）四月九日、神奈川県相模国愛甲郡依知村に生まれ、小門町の萩原家の婿養子となる。

明治九年（一八七六）から明治二十六年（一八九三）の間に、旧西中野町に機械製糸工場、養蚕伝習所を設立した。さらに、明治三十三年（一九〇〇）、浅川に自費で橋を架け、後に「萩原橋」と命名。「織都三人男」の一人に挙げられている。今は、金剛院に眠る。

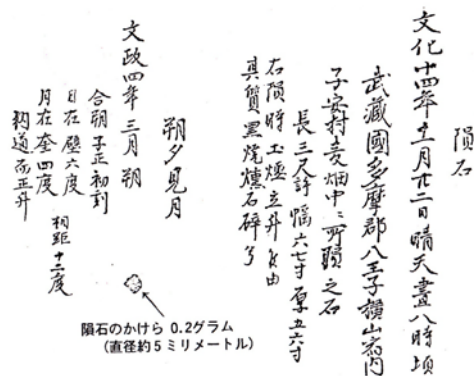


萩原彦七の墓

●隕石の話

今から約二百年前に八王子や三多摩地方に隕石が落ちたという記録が残っている。文化十四年（一八一七）

十二月二十九日未の刻（午後二時頃）、上野原金剛院の脇の忠七の麦畑、大和田河原、八幡宿、新田高倉それに、日野宿、日野本郷（日野市）、落合村（多摩市）に落ちたという。「光り物が空中を飛び」などの話が残っており、1m以上の穴があいていたという。その後の扱いは不明である。



隕石の文献

⑤ 時鐘山念仏院

上野町

宗派 時宗
本尊 阿彌陀如来
寺宝 梵鐘



念仏院全景

●時の鐘

時の鐘として知られている。元禄十二年（一六九九）八日市宿名主新野与五右衛門の発願により、千人頭、同心をはじめ十五宿の町民の協力により鑄造。昭和二十年（一九四五）

●念仏院の鐘

元禄十二卯巳歷（一六九九）

七月吉祥日

鑄物師 御鑄物師 椎名伊豫

総
高
一
五
二
・
〇
cm

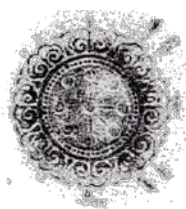
龍頭三七·五cm

(笠高) 一一・五 cm

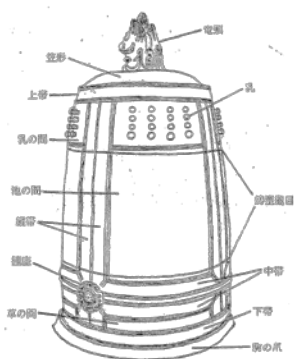


梵 鐘

の八王子空襲により鐘楼は焼失したが、昭和二十七年に再建された。鐘銘に「武州多西郡八王子町時之鐘」と八王子町の名が刻まれている。また、上野原晩鐘として「上の原ふりさけ見れば夕風に 梢はれゆく入相の鐘」と詠まれた名鐘。



撞座拓影
鐘をつく部分



(鐘身高) 一〇三・〇 cm

（乳の間）
五段五列×四区

二〇〇個

（池の間）縦三七・三×

横四・四／

四一·七×四区

(口径) 七九·〇 cm

（駒の爪）
八・三

(撞木) 松

(撞座) 一三・六×二力所

|| 三三・六／一九・〇

(撞座位) 二五・〇%

●念仏地藏尊

念仏院の敷地、右側に念仏地藏尊が立っている。その周りには、小さな地藏や墓石が幾つも安置されている。この地藏や墓石は、身元不明者や売られてきた女工、遊女、それに生活苦から口減らしのために始末した水子のもので、全部が女性の石物だという。明治期から大正期のものが多く、発見された場所は、念仏院からさほど遠い所ではないという。



念仏地藏尊



水子地藏



女工（織子）

⑥天満神社

上野町

勸請 金剛院開基真清上人

祭神 菅原道真

社宝 菅原公真蹟阿弥陀経一卷

例祭 七月二十五日

寛永三年（一六二六）別当寺の金

剛院の開基真清上人が天満社を創立したと伝えられている。八王子空襲の戦禍により焼失したが、昭和三十一年（一九五六）に再建された。石標の「天満社」は元文部大臣天野貞祐の揮毫である。



天満神社

⑦長祐山法蓮寺

上野町

宗派 日蓮宗 池上本門寺末寺
 本尊 久遠の本師釈迦牟尼仏
 寺宝 池上本門寺八十世御本尊
 開山 得善院日甄
 開基 檀越虎見主馬之助源兼行
 開創 天正元年（一五七三）
 創建時は、滝山城下にあったが、その後元八王子に移転。更に現在地に移転した。本堂は八王子空襲の戦禍により焼失、現在の本堂は戦後の再建。



天満神社



本堂内



法蓮寺全景

なみきいねい

●並木以寧の墓

並木以寧は、明和六年（一七六九）から弘化元年（一八四四）、千人同心組頭で虎見良蔵といった。医業を行い、天保十年（一八三九）に「養老畑」を設置し庶民の救済費にあてた。書道の弟子も多く、墓は臥牛に乗り、墓石に門弟五百余人と刻まれている。



虎見家之墓



並木以寧（源以寧）の墓

●背切地蔵

法蓮寺墓所の入口に、背を切られた地蔵が安置されている。かつての在所滝山城下から今の地に移されたもの。一説には、武田信玄公の娘松姫等が逃避行の際、お伴でこの地に来た人ゆかりの地蔵ではないかというが詳細は判らない。哀れを秘めた地蔵様として、今でも小石を手向ける人がいる。



背切地蔵

⑧長光山本立寺

上野町

宗派 日蓮宗 身延山久遠寺末寺
本尊 久遠実成本師釈迦牟尼仏
寺宝 開運延寿祖師（日蓮聖人像）
開基 本立院日建上人
開創 永禄九年（一五六六）

滝山城下に創建するが、その後、慶長元年（一五九六）現在地に千人頭原胤従（はらたねつぐ）が中興開基した。当初は、真言宗であったが、江戸期には日蓮宗の寺となった。

元禄年間（一六八八〜一七〇四）に關東十八代官の一人近山五兵衛が再興。総門、本堂、回廊、鐘楼、祖師堂を擁した寺域を誇っていた。その後戦禍に遭い、建物と共に千人同心川村小七郎が寄植した枝垂桜（日本百桜の一つ）も焼失した。

昭和二十三年、本堂を再建、その後、総門、庫裡を再建。総門、本堂、庫裡、祖師堂、浄行菩薩堂を整え、現在に至る。



日蓮上人



本立寺全景

●毘沙門天と摩利支天

日蓮聖人像の左側には八王子八福神の一つ、勇気を授ける武運の毘沙門天が、右側には護身、蓄財の神摩利支天が祀られている。毘沙門天は普通、剣や鉾をもっているが、本立寺の毘沙門天は長刀（なぎなた）を持つという大変珍しい姿をしている。



摩利支天



毘沙門天

●浄行菩薩

浄行菩薩は、我々の悪しき行いや体の悪いところを浄めてくれる菩薩。病氣や怪我の箇所を、タワシで菩薩の体を借りて洗い清めるもの。祈願が成就したときは、新しいタワシを奉納するという。今でも多くの人がお参りをしている。



浄行菩薩

●原半左衛門胤敦の墓都

原胤敦（はらたねあつ）は、千人頭で寛政十二年（一八〇〇）、蝦夷地御用を命じられ、北海道の白糠に着任した。又、弟胤暉（たねてる）は、勇払（現、苫小牧）と二手に分かれて警備と開拓の任についた。これが縁で昭和四十八年に八王子市と苫小牧市が姉妹都市の盟約を結んだ。胤敦は江戸時代の地誌「新編武蔵風土記稿」の編纂にも従事した。



原胤敦の墓

みたむらえんぎよ

●三田村鳶魚の墓

明治三年（昭和二十七年）、江戸研究家。大横町に生まれ、自由民権運動に参加。坪内逍遙らと車人形の研究や保存にも努力した。終焉の地山梨県下部温泉に、「三田村鳶魚終焉之地」の碑がある。主な著書としては、「大衆文芸評判記」「時代小説評判記」「江戸ばなし」などがある。



晩年の
三田村鳶魚



三田村鳶魚の墓

●阿弥陀三尊種子板碑

阿弥陀三尊の種子を刻んだ美しい板碑で、南北朝時代初期、建武三年（一三三六）の紀年銘がある。緑伝片岩、高さ百二十六cm、幅三十四cm。石面に彫られた二十八文字は、「その男女 追修の福を以て 大金光有り 地獄を照らし 光中微妙の法を演説す 父母を開悟し發意せしむ」との解釈がある。



建部三年（一三三六）
室町幕府の制定



阿弥陀三尊種子板碑

●里帰りの八重紅枝垂桜

この桜は、市内横山町に在住の金子吉蔵氏が昭和五十五年十二月、京都の造園より苗を八王子に移植した二本のうちの一本で、平成三年に寄贈されたもの。親木は、平安神宮が創建された明治二十八年仙台市より寄贈されたもの。さらには近衛家に伝来した「糸桜」を津軽藩主が持ち帰り育て、再び京都に帰したことで、「里帰りの桜」と呼ばれた。その後、親木の穂木と接木したのが、この「八重紅枝垂桜」という。平安神宮のこの桜は、谷崎潤一郎の「細雪」にも登場している。



八重紅枝垂れ桜

【上野原宿】

江戸期から明治初期の宿名。八王子横山十五宿のうちの一つ。明治十五年（一八八二）八王子上野町となる。現在の上野町にあたる。上野原の地名は各地にあり、一段高い地をこう呼んでいる。

●上野町

市街地の西南部にある。明治二十二年（一八八九）八王町の成立により八王子上野町が上野町となった。大正元年（一九一二）十月一日、町名改正により町名が確定。八王子市制施行を経て今日に至る。

⑨南清山一乗院観音寺

万町

宗派 真言宗智山派 恩方宝生寺末
本尊 十一面観世音菩薩

開山 頼仙法印

開創 室町時代（一四六〇）

境内「薬師堂」の別当寺である。

現在の本堂は、大正十一年（一九二二）青梅から移築したもので、向拝（ごはい・こうはい）の彫刻群は、

仏師佐藤光重の作品。

本堂屋根棟の両端には、二つの「擬宝珠（ぎぼうしゅ）」の造りを持つ、関東地方では唯一の造りという。また山門は、千人頭中村氏の屋敷門を移築したもの。

境内には蘭方医秋山義方、左蔵父子の墓、下犬目から飛来したという霊像を祀る観音堂などがある。

*向拝：社殿仏殿の張り出した部分



本 堂



観音寺全景



本堂屋根棟の二つの擬宝珠



十一面観世音菩薩像

●お薬師様

観音寺境内に薬師堂が祀られている。本尊薬師如来は、犬目の「峰の薬師」とも称され、天正年間（一五七三〜九一）犬目村より現地に移動したという。また、この本尊は、犬目村祥雲寺の本尊であったとも伝えられている。寛永年間（一六二四〜四四）御朱印薬師領五石を拝領している。観音寺は、明治三十年（一八九七）四月の八王子大火で焼失した第三小学校の仮教室にも充てられていた。



峰の薬師堂内

●秋山義方父子の墓

秋山義方は、安永八年（一七七九）から安政四年（一八五七）の人。桐田村千人同心飯田氏の子として生まれた。五歳の時子安村秋山氏の養子となり、蘭学を学び眼科医を子安町に開業。当初義庵と名乗ったことから「義庵さんの目薬」と親しまれた。その息子佐蔵は、文化十三年（一八一六）から明治二十年（一八八七）も義方を名乗り、安政年間（一八五四〜六〇）医学書の翻訳も行った。のちに陸軍医総監にもなった。



秋山義方父子の墓

●石垣に寄付名

観音寺入口の石垣には、寺の再建などに寄付した人達の名前が数カ所刻まれている。「加島屋家中」、七人の「城所」の寄付者の名前が残っている。



石垣の一部に刻まれている加島屋家中



石垣に刻まれている寄付者名

⑩寛元山東源寺

万町

宗派 曹洞宗 恩方心源院末
本尊 釋迦如来

寺宝 地藏尊・如意輪観音

開山 幽山格上人

開基 森原法山大和尚

開創 寛文元年（一六六二）

江戸期の頃は、東源庵と呼ばれ、代々尼僧が住んでいた。明治二十三年（一八九〇）心海知請尼が亡くなり、手続きの不備から昭和三年迄、寺院の権能を失い寺領没収の寸前であった。山梨県福泉寺住職の森原法道が住持職を辞し、東奔西走の末東源庵の住持となった。昭和四年（一九二九）七月二十日、再創免贖を下付され、東源庵を東源寺と改めた。更に、清瀬村の円福寺住職、森原法山を開山とし、自らは二世となって再開創となった。



中央が如意輪観音



東源寺全景

● 万町

JR八王子駅の西南部にある。大正元年（一九一二年）十月一日、町名改正により町名が成立。大正六年（一九一七年）八王子市制施行を経て今日に至る。江戸時代の新横山村の内、小名十日市場の地にあたる。



不動明王

⑪ 清涼山長心寺

寺町

宗派 曹洞宗 恩方心源院末
本尊 釋迦牟尼佛
寺宝 甲子大黒天

瀧見觀世音菩薩

開山 禅室祖参大和尚

開基 清涼庵浄刹妙信禅尼

開創 慶長三年（一五九八）

元和年間（一六一五〜一六二三）心

源院第八世禅室祖参によつて中興し、

寛文年間（一六六一〜一六七二）北

海がさらに堂宇を再興して、十六羅

漢をまつり、大般若經六〇〇巻を書

写して祈念奉安した。昭和二〇年八

月の戦災により全焼。昭和四十八年

五月に本堂を再建、平成五年五月客

殿を再建した。戦前、本尊木彫揚柳

観音坐像および大黒天は広く世に知

られていた。



本堂内



長心寺全景

●清涼殿

長心寺本堂地下には、檀徒各家の家内安全、火盜消除諸縁大吉禪を祈念し、遺骨を収めた靈廟清涼殿がある。故人の遺徳に報恩感謝し、極樂往生を祈り、一身一宗の心のよりどころとするためである。

●甲子大黒天

古代インドでは、マハーカーラ(偉大な黒い者)と呼ばれる。本寺の大黒天石像は、寛文元年(一六六一)北海長老が堂宇を再建したおり、江戸の石工に彫らせ「力士雷電ヲシテ遷座」と伝えられていた。六十日に一度の甲子の日に、縁日が開かれ賑わいを見せていたが、八王子空襲の戦禍により焼失してしまった。現在の三俵大黒天は、昭和三十年(一九五五)、台町・宮崎勝五郎氏の寄進によるもので仏師佐藤光重の作である。

●文学碑

長心寺入口の左には、文学碑が建立されている。

・西行塚
年代不明。碑面の文字は、平安以来代々蹴鞠、和歌を業とし、書道にも一派を成した飛鳥井家の人によって書かれたもの。

・芭蕉句碑
明治三十六年(一九〇三)当時の住職、寛誉泰道により建立
「西行の草鞋もかかれ栢の露」



甲子大黒天

・可屋句碑

「涼しさや月下にならす花挟み」
俗名滝見泰道。八王子の近代俳壇を代表する一人。鎌水の永泉寺にも可屋の句碑がある。

「しばらくは夢のかりきるはな衣」



瀧見観音像



芭蕉句碑

● 広徳館跡

(自由民権運動活動拠点)

明治十一年末、藩閥政治に対抗して自由民権運動がおこり各地に広がった。明治十四年(一八八一)には、板垣退助を総理とした「自由党」が結党された。明治十六年(一八八三)八王子でも有志が「共立会」を設立。当境内にあった蟠龍館に「広徳館」を開設し、自由党の根拠地として活動を展開した。



墓地入口左の塀に史跡・広徳館跡の碑文が嵌めこまれている

● 寺町

江戸時代から現在まで続く町名。明治十五年(一八八二)町村分合により八王子寺町となる。明治二十二年(一八八九)八王子町制施行により再び寺町となった。大正元年(一九一二)十月一日、町名改正により町名が確定。大正六年(一九一七)八王子市制施行を経て今日に至る。新編武蔵風土記稿に「寺院多くたつる地なれば寺町の名ありと云」とある。

⑫ 仏法山徳善院興林寺

子安町

宗派 浄土宗 大横町極楽寺末

本尊 阿弥陀如来

青石塔婆

開山 本蓮社願譽興阿林忠天龍大和尚

開基 鎌倉時代

開創 天文十二年(一五四三)

現在の本堂は、昭和四十年代再建。八王子往還(後の絹の道)、鎌倉往還

の枝道であった。小野路(最古の甲州道)、また川越往還も近くを通り、かつてはこの場所が往還の重要な地点であったという。更に、江戸時代には、甲州道に対する南の脇道として、千人町を避けた町人達の道でもあった。



興林寺全景



阿弥陀如来

●弘安の板碑

山門を入ると左側に市指定有形民俗文化財の「青石塔婆 弘安の板碑」が屋根囲いで安置されている。

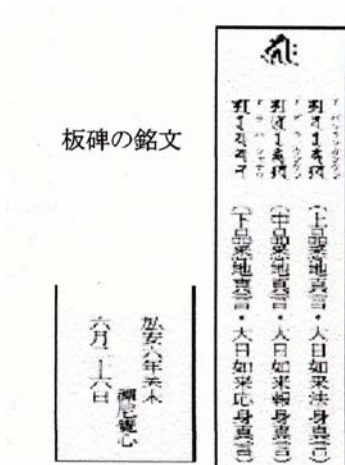
この板碑は、弘安六年（一二八三）に建立された。大正の中頃、歴代住職の墓地に頭部が少し見える状態で埋没しているものを掘り出して保存したものといえられている。

高さ百十一cm、幅三十六cm、厚さ五cmの板状の緑泥片岩で作られ、頭部の山形は欠損しているが、上部に刻まれた阿弥陀の梵字は見事である。下部には、造立年代を二行に割り書きし、最下部の中央に供養者「禪尼覺心」の名がみられる。連坐の下に記された大日三種悉地真言は全国的にみても稀少な例である。

郷土資料館所蔵の文永八年（一二七一）の板碑に次ぐ、鎌倉時代の資料として貴重である。



弘安の板碑



板碑の銘文

●灯籠伝説

この灯籠は、大久保長安が佐渡金山奉行の折、上杉謙信から譲り受けたが、慶長十九年（一六一四）大久保家が断絶した後、徳川将軍の威光をはばかり、興林寺裏手の竹藪に隠したという。その後、灯籠は安置され、お参りに来た八日市宿の甲州屋伝左衛門が撫で擦って帰ったところ、運が開けた。以来、「開運灯籠」として親しまれてきたという伝説が残っている。また、一説には、小門宿の大久保長安屋敷にあった上杉謙信遺愛の石灯籠で、大久保家が断絶した時にこの寺に運ばれたと云われている。



謙信遺愛の石燈籠

●子育て地蔵尊

興林寺に入る左側石垣の一角には、子育て地蔵尊が祠に入って安置されている。この地蔵尊は、以前子安公園から市の区画整理や公園造成によりこの寺に移動されたもの。この地の集落では、昔から地蔵講が続けられてきた。今でも講の日には、近所の子ども達に菓子などを配り、行事として続いている。また、人々がお参りする姿も見受けられる。



子育て地蔵尊の祠

●小野路往還

興林寺南側の道が小野路といわれる道で、八王子駅南口の前から山田川の小野路橋を通り、小野路へ行く道である。戦国期以来の道の名である。



小野路道



子育て地蔵尊

◎参考資料

- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵名勝図絵
- ・八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子千人同心
- ・八王子の板碑
- ・八王子の歴史と文化
- ・八王子市石像物組合調査報告
- ・八王子と鉄道
- ・日本総合図録
- ・八王子と日野の歴史
- ・江戸時代の八王子宿
- ・ONETWOエイト
- ・インターネット各ページ
- ・江戸東京梵鐘銘文集
- ・信松院のしおり
- ・東京都教育庁資料
- ・自然科学と博物館第三十四巻
- ・セピア色の風景
- ・歴史散歩事典
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ